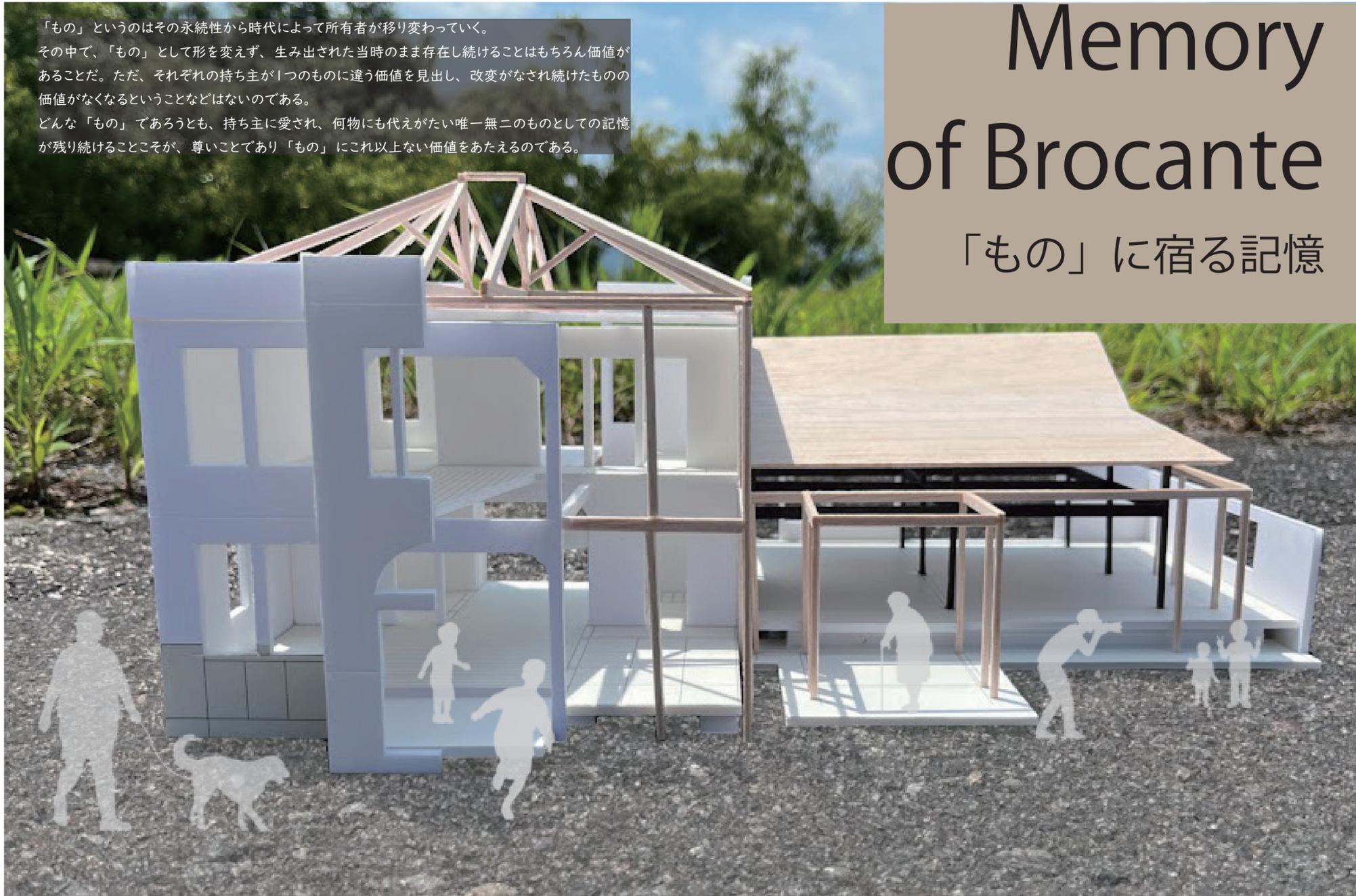


「もの」というのはその永続性から時代によって所有者が移り変わっていく。その中で、「もの」として形を変えず、生み出された当時のまま存在し続けることはもちろん価値があることだ。ただ、それぞれの持ち主が1つのもに違う価値を見出し、改変がなされ続けたものの価値がなくなるといったことなどはないのである。どんな「もの」であろうとも、持ち主に愛され、何物にも代えがたい唯一無二のものとしての記憶が残り続けることこそが、尊いことであり「もの」にこれ以上ない価値をあたえるのである。

Memory of Brocante

「もの」に宿る記憶



Site 清流の郷「醒井」

対象地域は、滋賀県米原市醒井地区。平成の名水百選にも選ばれた居醒の清水を源とする、地蔵川が流れている。きれいな水中でしか見ることのできない梅花藻やハリヨなどが川の流に身を任せ、醒ヶ井のゆったりとしたときの流れに彩を与えている。



Target building

対象建築物である、旧醒井郵便局舎はウィリアム・メレル・ヴォーリス設計の、木造トラス構造の洋館 2 階建てと木造平屋建ての和館によって構成された、擬洋風建築である。1915 年に建設されてから 1973 年まで郵便局として使用され、その後 2000 年に改修工事を終え、米原市醒井宿資料館の 1 つとして現在まで多くの人々が訪れている。

愛され続けるヴォーリス建築

幾度となく増築や減築、改修を繰り返してきた建物であるが、どこからか魅了され、この醒井の地を訪れる人は後を絶たない。——「建物の風格は人間の人格と同じく、その外観よりむしろ内容にあります。」——
ヴォーリスのこの言葉の通り、この建物は時代を超えてもなお息づく、得も言われぬあたたかい雰囲気を持っているのだろう。

Concept プロカントとは

プロカントとは、思い出の詰まった「もの」を手放す時、自らの手で次なる持ち主とその「もの」の出会いの場を設けて引き合わせる文化である。すなわち、「もの」が「受け継がれる」ための美しい文化なのだ。

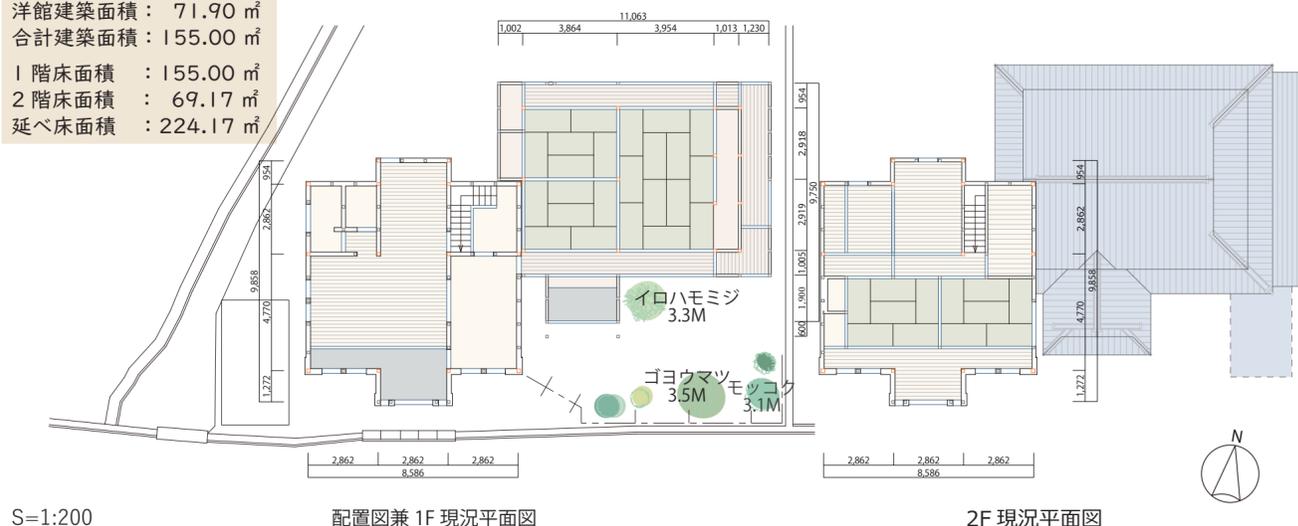
古道具に魅力を感じるのには日頃から「もの」に愛情をもって大切にしている人であると考えられる。古道具はここでこの魅力があるのか。それは其々の過去が唯一無二の価値になるという価値観があるからではないか。建物が遺り受け継がれていくことに価値があることも同じイジムであると考えられる。

受け継いでほしい又は受け継ぎたいという思いを人々が抱くことに焦点を当てて「住み続けられる」「古き良きものの再生」についてこたえていきたい。



Ground plan

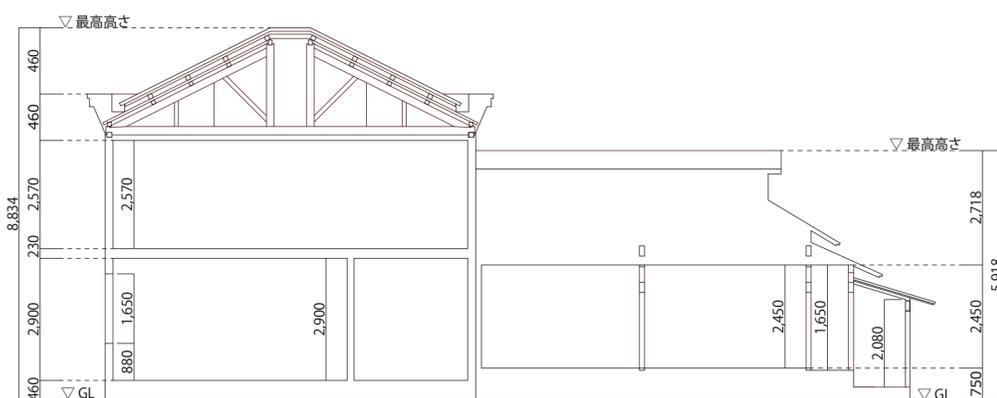
敷地面積 : 446.04 m²
和館建築面積 : 83.10 m²
洋館建築面積 : 71.90 m²
合計建築面積 : 155.00 m²
1 階床面積 : 155.00 m²
2 階床面積 : 69.17 m²
延べ床面積 : 224.17 m²



Elevation



Section



住み続けられるとは――

記憶を紡いでいくことである。

Memory 1 2世帯住宅とピアノ教室

資料館としての役割を卒業し、2世帯家族の手に渡った。庭に面した和館を祖父母の住まいとして、洋館の2階を子世帯の住まいとして使うようにした。祖母の趣味を活かし、地域の人との関わりをもつことを叶えた。

◆ 家族構成

祖父 (68): 庭いじり
祖母 (68): ピアノ
父 (37): 山登り
母 (35): 読書
息子 (5): 川遊び

◆ 各館の使用用途

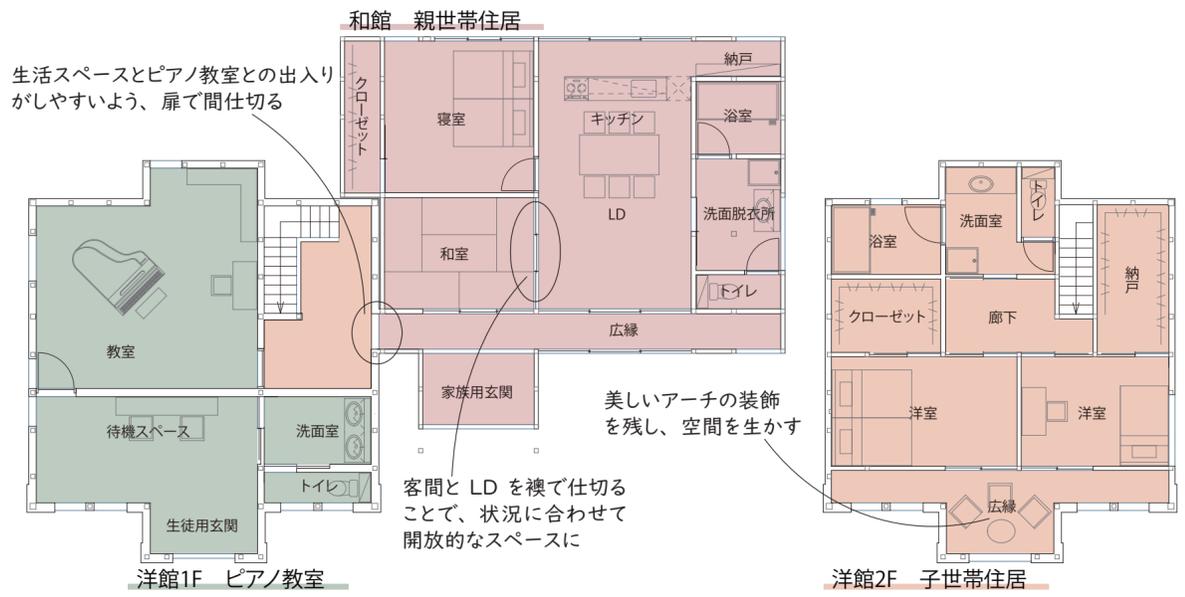
和館…親世帯住宅
食事は2世帯そろって摂ることで共通の空間をもち、コミュニケーションの場とする。

洋館1階…ピアノ教室

生徒は家族とは分けた洋館の玄関から出入りする。

洋館2階…子世帯住宅

南側は現在の間取りを生かし、ヴォーリス建築の温もりを感じながら生活する。



Memory 2 まちに開かれた洋館と1世帯住宅

2世帯だった家族は、祖父母の他界や子どもの巣立ちを経て夫妻のみの1世帯となった。そこで、和館の住居はそのままに洋館をテナントとして貸し出した。

◆ 家族構成

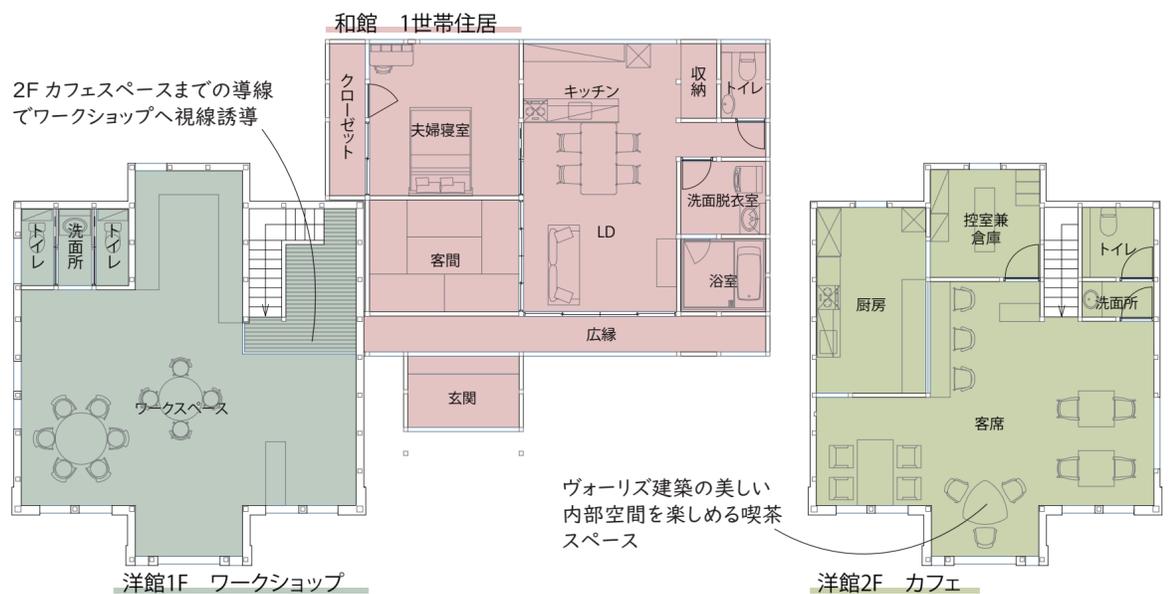
夫 (50): 山登り
犬と散歩
妻 (48): 読書
犬 (1): 水遊び

◆ 各館の使用用途

洋館1F…ワークショップ
海外の観光客など多い醒井に体験型施設を開き、よりよい活性化を図る。

洋館2F…カフェ

1Fでワークショップに参加した後などに休憩ができるようにする。またアーチや正面の窓などのヴォーリス建築を楽しんでもらう。



Memory 3 醒ヶ井の子どもたちの憩いの場

観光客のためにまちに開かれていた建物は、地域の子ども達に向けて解放されるようになった。洋館1Fで地域の高齢者などを講師に迎えたフリースクール、和館で子ども食堂を開催し、子ども達だけでなく地域の幅広い世代の交流の場にもなっている。

◆ 家族構成

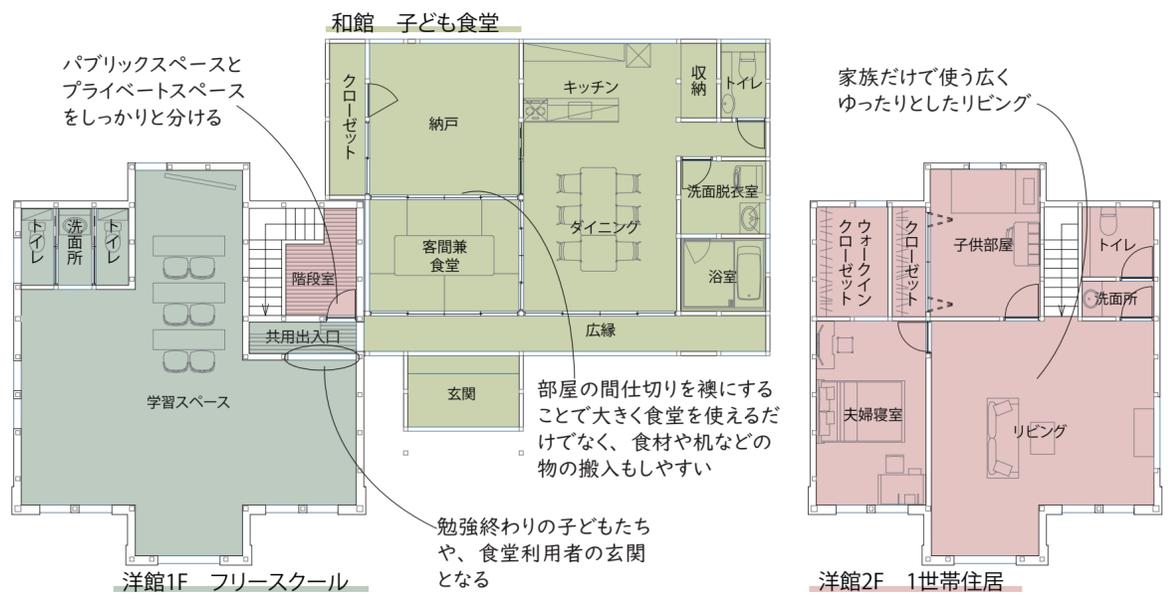
父 (31): 釣り
母 (32): 料理
ガーデニング
娘 (6): 昆虫採集

◆ 各館の使用用途

洋館1F…フリースクール
平日は放課後、休日は午前中に就学支援のボランティアが行われる。

和館…子ども食堂

週に2~3回程度開かれる。子どもだけでなく、親子でも利用できる。



Memory 4 子どものころの記憶から

フリースクールに通っていた子どもが大人になりこの建物を受け継ぐことになった。1組ずつ受け入れる小さな民泊を営み、あらゆる人に建物の魅力を知ってもらおうきっかけを目指している。民泊を受け付けていない期間は写真展を開催したりフリースクールの仲間と集まる場として使ったりできる広々とした空間にした。

◆ 家族構成

夫 (52): カメラ
妻 (50): 散歩

◆ 各館の使用用途

和館…1世帯住宅
夫婦にとって思い出の詰まった場所なのでリフォームせずに使う。

洋館…民泊スペース

宿泊者が集まることができるようにした。アーチ装飾や大きな窓、階段はヴォーリス建築の魅力伝えるものとして手入れをして生かす。

